

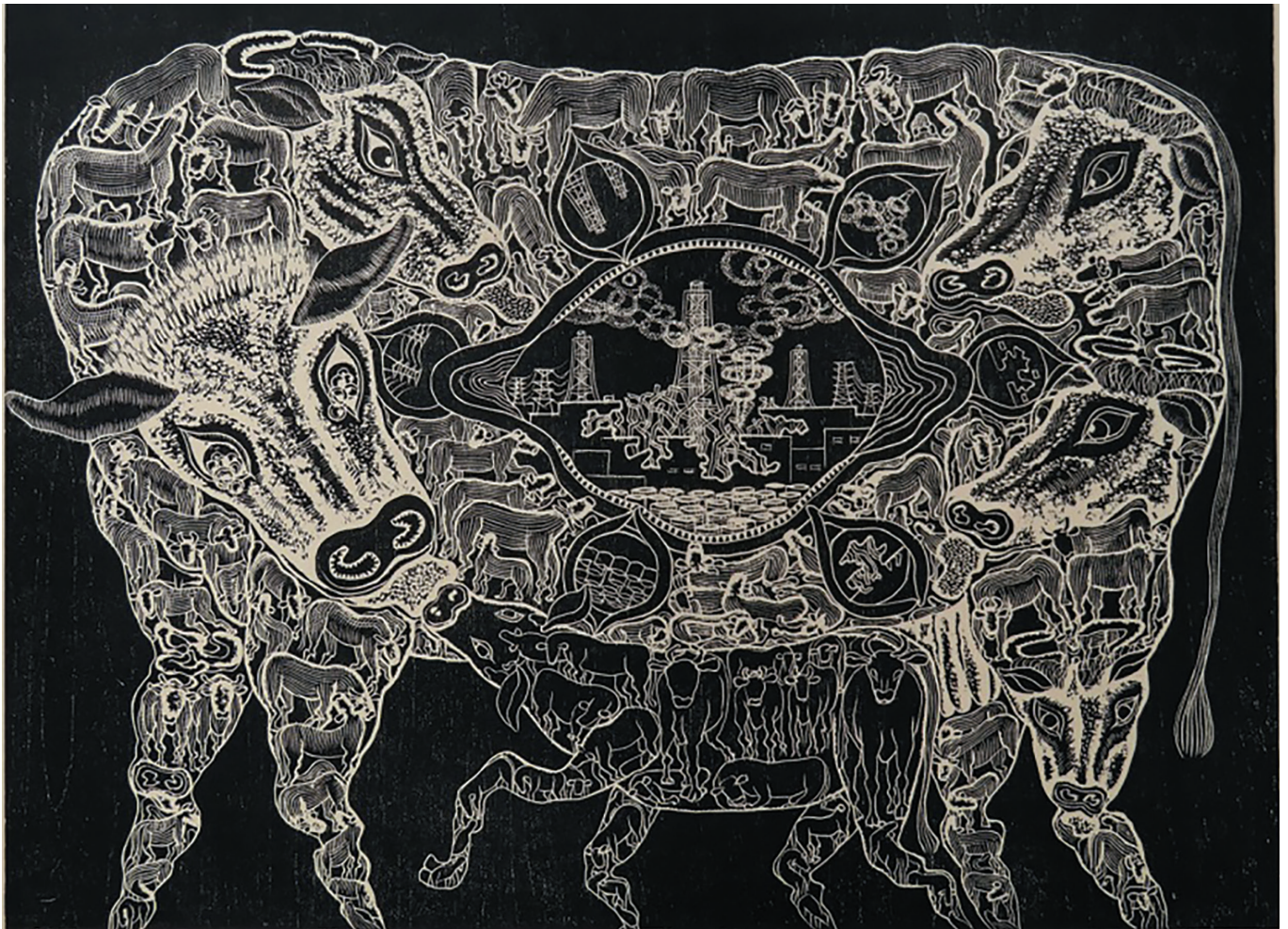


2023年春・72号

信条・世に媚びず ・ 粹にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行/吉田 進
携帯 090-3168-1063
FAX 072-863-0605
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://lifecrossing.ne.jp/>
E-mail : info@lifecrossing.ne.jp



3月11日に原発事故から12年目を迎えます。現地では牛も犠牲になり、信州の木版画家・矢島慎吾さんは見捨てられ放置された牛を憐れんで70×50cmの木版画「放射能の中を生きる」を制作されました。牛の目から涙が……（本誌P8参照）

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

国民の論議ぬきの「安保戦略」閣議決定 改めて野党の奮起を求める	吉田 進… 2
父がくれたお弁当箱	東京都 奥寺 大輔… 3
百年後の世界連邦をめざそう	東京深川 三田 栄考… 4
新外交イニシアティブ(ND)の提言(上)「戦争を回避する」 編集文責・当誌… 5	
大仏師、松本明慶師の素顔に迫る	宇宙生命哲学者 伊藤 俊洋… 6
あなたにとって死とは？	大阪 中央区 原野 通有… 7
福島を訪れて／放射能の恐ろしさ 人間の愚かさ サラバ原発 佐久の会 矢島 慎吾… 8	
ロシアとの共同制作映画で、 戦後の共存できる平和を作る②⑩	ユーラシア国際映画祭代表 増山 麗奈… 9

ライブストック(「家畜」の意) 『市民参加条例』推進委員会 代表 松井 学… 10	
32年の区議会議員を終える今、思うこと	東京都 江東区議会議員 福馬 えみ子… 11
雪を考える	越後文学同人 丸山 善三… 12
ファイナルアンサー	東京都東久留米市 植松 信保… 13
憲法25条生存権を発出させた鈴木義男………	13
人々の小景②③ 伊丹 十三 - 映画に生き、映画に死んだ、映画監督 -	市川 隼… 14
困った困った	山本 豊子… 15
余録／編集後記………	15
「国民の生活が第一」の政治の実現のためには 政権交代が必要	衆議院議員 小沢 一郎… 16

国民の論議ぬきの「安保戦略」閣議決定

改めて野党の奮起を求める

吉田 進

おめでどう書いて破った年賀状

終わりが見えないコロナ変異種と露軍のウクライナ侵攻。それで発生する物価高。どう考えても「めでたいか／何がめでたい／おらが春」だ。そんな正月は冷酒のんで、過去を振り返るに限ると、うとうととしてた

ら今年石川啄木の「働けど働けど猶わが生活楽にならざりき／ぢっと手を見る」ときた。自分の手を見たら、何本かの指先関節がくの字になっていた。わが輩も年寄りになってもうたわ。

しかし世の中、「一難去ってまた一難」。一例は、安保戦略（3文

露軍のウクライナ侵攻が世界経済を大混乱させた。日本では40年ぶりの物価高で家計は火の車。一方、コロナ第8波の感染、死者も急

上昇。中国の感染者は8億人、死者は7・2万人とか言うから不気味だ。一方、自民党有志が核攻撃に備え

「核シエルト」議員連盟」を設立したという。それって、特権階級の避難所づくりか？

そして、政財界の「賃上げ号令」は、格差拡大につながりかねない。その縮小の地ならしは「強きをくじき弱きを助ける」政策でやってもらいたい。

書の閣議決定だ。国会無視も甚だしい。岸田首相は、一足先に米バリーデン大統領領誼で、「あなたは真のリーダーで真の友」とのお墨付きをもらって、国会へその原案を提出した。——姑息そのものだ。

うち一つは、外国の脅威に対し、直接攻撃する力を持つ。つまり、敵のミサイル発射基地の「反撃能力」の宣言である。そして、防衛予算を

国内総生産（GDP）比の2%を目指し、5年間で防衛費を43兆円とすという案だ。その後、岸首相はTVで「改憲」を国民へ訴えているが、本音はそこ。ところが国会での与野党は、防衛費増をめぐって、「どこで増やすか、誰が負担するか」のカネ論争でもめており、「カネやないやろ。命と民主主義が大事やろう」と言いたい。国会議員は皆、憲法9条の虫食い論議にピントをしばり、地ならし先行の沖縄やその周辺でのミサイル基地の中止、その違法性を追及してもらいたい。



自民ガタガタ野党バラバラ

自民党支持率25%の急落原因は、①安倍晋三元首相の銃撃死で明るみに出た旧統一協会との「カネと票」のゆ着②インフレへの対応遅れ③失敗したアベノミクスの政策継続が大

きい。それは、異次元の金融緩和で円安株高をつくり出し、企業の業績を押し上げた。しかし、企業は利益計500兆円の内部留保を蓄めたが、その多くは海外への投資へ向かい、その恩恵は大企業や金持ちへ向か

い経済の好循環とはならなかった。結果、格差は拡大し賃金は伸びず、逆に非正規労働者は200万人を超える事態となった。

労組が会社防衛隊に変身

「総評」は、ニワトリがアヒルに変身したと言われたが、やがて組織はやせ細り、「原発や薬害の反対闘争は行なう」の約束、つまり垣根を低くして「連合」ができた。

そんな「連合」を元連合大阪の副会長

の要宏輝さんは、「―結成当初によく唱和された『顔合わせ』心合わせ↓力合わせ」という言葉があった。『顔合わせ』はゴルフや飲み会で

「めでたい春」をつくらうよ。

「平和憲法を世界へ」が責務

改めて、日本の敗戦状況を思い出す。

戦勝国から無条件降伏のポツダム宣言が出た。日本の指導者たちは国体護持をめぐってもめ、その返答が20日遅れた。戦勝国の米ソは利害対立。アメリカは日本の早い降伏を願って、広島、長崎の2県に原爆を投下。死者は両県で40万人を数えた。その人間を原爆のモルモットにした憎しみは未だ癒えることはない。それが世界の核廃絶につながれば、せめてもの死者への供養だと思っている。露軍の残虐無法なウクライナへの攻撃を「それが戦争なんや」の逃げ口上はもう言わせない。

100点満点だが「心合わせ」は道半ば、『力合わせ』は成就することなく終えてしまうのか」と書いている。

そんな「連合」がやったことは、大なり小なり企業ぐるみの非正規労働者の雇用。大企業労組を中心とする官製春闘の賃上げだけ。反面、政府の原発再稼働や軍拡を応援している。改めて闘う団結より、闘わない団結の強さを知ったわけ。しかし、自ら加担した非正規労働者の正規雇用化は忘れないでほしい。

そこで「小異を捨てて大同につく」二大政党づくりの約束も忘れたらアカン。みんな力で合わせて

「めでたい春」をつくらうよ。

僕は血の繋がった自分の本当の父親を知らない。写真だけは見たことがある。だが会ったこともなければ声を聞いたこともない。僕が生まれてすぐ両親は離婚した。母はとも優しいが僕は父親という大人の男性の愛情をよく知らずに育った。

僕に初めて父親ができたのは20年前のことだった。僕が

父がくれたお弁当箱

東京都
奥寺 大輔

10歳の頃、母が再婚したのだ。小学校4年生だった。いきなりの日本移住。しかも岩手県だ。韓国のソウルで母と2人で暮らしていた僕にとって、いきなりの外国生活であり、いきなりの田舎生活であった。新しい父親は大工をしていった。主に木造住宅を建てる。仕事を終えて家に帰ってくる夕飯を食べてテレビを見な

がら寝る。毎日がその繰り返しだった。新しい父親は、地震が来ると自分がまさきに逃げてしまおうし、野良猫を手懐けて母を困らせるし。威厳のかけらもない。お父さんでもっとしつかりしているものじゃないのか。僕は多少の不信感を新しい父親に対して

除も洗濯も料理も洗い物さえも。ところが母がいなくなつて新しい父親はきちんと家事をしてくれた。当時、僕は吹奏楽部に所属していて給食のない土曜日に部活の練習に行った日があった。すると新しい父親は

「大輔、これ持って行け」

てゴツゴツしている大きな手で不器用ながらも一生懸命に握ってくれている姿を想像すると思わず笑みがこぼれた。30年間の人生であれほど美味しいおにぎりを僕は未だ食べたことがない。

を浸して食べたり、「歩いても歩いて」ではとうもろこしのかき揚げを作ったり。特に「万引き家族」においてはリリーフランキー演じる治が虐待に遭っていた女の子を家に連れて帰る時、コロッケ食べる？と聞いて警戒心を解くシーンがあり、食べ物が重要な役割を果たしている。



感じていた。

日 本での生活に慣れてきた中学1年生の頃、母が乳がんを患っていることがわかった。母は手術を受けて1ヶ月ほど入院し、その間は新しい父親との2人きりの生活になった。新しい父親は、

普段、全く家事をしない。掃

とお弁当を用意してくれていた。照れ臭そうに少し笑っていた。部活が始まる前、お弁当の蓋を開けてみると、拳より大きいおにぎりが2つ入っていた。頬張ってみると、冷凍物のミートボールが3つ、ゴロゴロゴロッと入っている。大工仕事でひび割れ

た。おにぎりが握ってくれたおにぎりを思い出すたびに家族を家族たらしめるものはなんだろう、と考えてみる。僕は枝裕和さんの映画が大好きだ。多分、ほとんどすべての枝監督作品を観ている。是枝監督は家族の不在を繰り返し描いてきている。そして血縁関係のない擬似家族もまた映画の題材にしてきた。是枝映画の登場人物に、父親のいなかった子供の頃の僕を重ね合わせる。すると、気づくのは家族を家族たらしめるものは血縁ではなくどういった時間を共に過ごしてきたか？

僕はその後、無事に退院していつもの日常生活に戻った。両親は今でも健在だ。僕は昆布おにぎりが一番好きだが、それよりもっと好きなのはミートボール入りの巨大なおにぎりだ。おそらく父は自分が握ったおにぎりのことを覚えていないだろう。だけど僕はいつまでも覚えている。家族であることとしてのし

家族の絆を形成しうるのは血縁よりは些細な日常の何気ないワンシーンではないだろうか。そのように考えると多様な家族観が生まれて、同性カップルであっても里親であっても代理母出産であっても血縁にとらわれずに世間から白い目で見られることなく誰もが温かい家族を持ちうるのではなからうか。

百年後の世界連邦を

めざそう

東京深川 三田 栄考

どうして人類は世界連邦をめざさないのだろうか？人々はこぞって戦争はいやだと言いつつ、平和を望むと言っているのに。紛争が、戦争が絶えないのはどうしてだろうか？

では戦争が起る理由は何か？時代によって異なるが、征服欲、領土欲、資源欲、宗教上の問題、民族問題等々。動物にも命を掛けての争いがある。原因は単純だが、高等動物の人類は遙かに複雑な理由で戦争になる。加えて権力者がもつともな理由を付けて国民を煽るから戦後にも怨念が残る。

人類が地球上に現れて20万年、国境という概念が、民族そして国家が出現したのはたった数千年前からに過ぎない。

国際結婚やグローバル化によって多少民族は混合しつつあるが、国家・国境は近年確立し不可侵になった。考えて

みてもらいたい。国境が、国家が戦争の発端になるケースが多い。そして愛国心なる利己心が状況を困難にしている。もしこの世に国境国家民族がなくなりせば、戦争の起因がかなり減るのではないか？

逆にこれらがある限り争いの種は尽きない。もとより、簡単にこれらの怨念がなくなるわけではないが、世界連邦が実現できない限り永久に解決策はない。核抑止力に頼る限り永遠に核の廃棄はできない。

かつては世界連邦を耳にしたが、いつの間にか全く聞かなくなつた。あんな国が信用できるか！あんな国に援助できるか！あんな国と一緒にされるか！然り、全く同感である！しかし、核なき世界、恒久平和が人類の理想、目的であるなら、世界連邦をめざさないことには実現は不可能である。

野党の政權・世界観に世界連邦を

世界の首脳が、日本の政治家がスローガンでよいからうたえば、世界連邦が目標になる。その方向に向かうのが正、反する勢力が悪となる。

当然国連を強化発展させていかねばならない。そう言う「常任理事国が侵略しているではないか」「国連決議は実効性がない」と国際連合頼れずと嘆くご仁もいるだろう。しかし、国連に代わる新たな組織の設立は絶対不可能である。

もつと我々は国連中心主義を強調し推進するべきである。政府やメディアは国連の活躍、役割を国民に伝えるのが極めて不十分である。国連に問題が数多くあるが、世界、人類の良識や正義は着

実に浸透しつつある。何故なら世界に向って真つ向うから民主主義や自由に対する議論を展開できない時代だからである。今や世界は曲りなりにも平和や人類の幸福に資する発言しか許されないから。100年前、50年前に比較すれば、共生・共助の運動が進んでいる。国連には数々の機関が人類の協調と発展のために活動し寄与している。非核（IAEA）、国際原子力機関・核兵器禁止条約会議）や温暖化（国連気候変動枠条約）、世界保健機関（WHO）、国際原子力機関（IAEA）、教育科学文化機関（UNESCO）——世界遺産採択）、国際労働機関（ILO）、国際司法裁判所（ICJ）、



日の丸よりも国連旗を

界連邦に結びつけるのが人類存続の唯一の道である。ウクライナ侵攻の如く問題が幾つも起るだろうが、辛抱強く全世界の国々と共に、

国連大学（UNU）など。昨年国連分担金は米国は22%、日本は8%、中国も15%拠出していい。加盟国は196カ国。国連を発展させて世



国連

界の先進地域だけあつて確実に前進している。他の地域も範にすべきである。ひるがえって我がアジア地域を考えると日本と中国がうまくやらないことには何も始まらない。下手をすると韓国が中国と連携してアジアをリードしかねない。軍事よりも外交を、交流を重ねて100年後の世界連邦をめざそう！

「外交目標と見合う力の調和」への議論いまだなし

近年のロシア、中国、北朝鮮の軍事優先政策は、日本国民のなかに戦争の不安を増大させている。その状況を受け、政府は、日米同盟による抑止力の強化、敵基地攻撃能力の保有を含む防衛力の大幅な増強を目指している。政府は戦争抑止論を根拠に軍拡に走るが、兵器を投入したり、



猿田 佐氏
(新外交イニシアティブ代表)
防衛力強化の枠組みでは、抑止力として、敵基地攻撃能力の保有を含む防衛力の大幅な増強を目指している。政府は戦争抑止論を根拠に軍拡に走るが、兵器を投入したり、

日米は戦争回避模索を

2025.4 琉球新報掲載

琉球新報掲載

軍備を拡大すれば相手もそれを口実に更なる軍事拡大に向かうのは、歴史と現在のロシアをみれば自明のことではないか。人類滅亡の第三次世界大戦を避けるのは、軍事を従として平和外交を主とした軍縮核廃棄をめざすべきである。「外交には一定の力の裏付けが必要だ」という主張もある。この点、まずは、日本の

自衛隊が、既に世界有数の軍事力をもつ存在となっていることを忘れてはならない。さらには、外交の目標とは何であるのか。相手を説得することであるなら、必要な力は強制手段としての軍事力だけではなく、国際世論と協調した道義的な説得力や、日本の善意と魅力を伝えるソフト・パワーが必要となるはずだが、

新外交イニシアティブ(NDI)の提言(上) 「戦争を回避する」

創立10年になる民間のシンクタンクのNDIが戦争を避ける提言を発表した。当誌は冷静にして論理的な提言を支持しNDIの了解を得て多少の編集を加味して3回に分けて掲載する。

編集責・当誌

今、外交の目標とそれに見合う力をどう調和させるかの議論は行われていない。ウクライナ侵攻戦争は、始まった戦争を終結させることが困難であること、ミサイルから安全な場所はなく、民間人の犠牲を防げないことを示している。抑止力強化一辺倒の政策で本当に戦争を防ぎ、

国民を守ることができるとか。その代替策を含め、いかにして戦争を回避するかを活発に論じることこそ政治の使命であり、政治の対抗軸であるべきである。
軍事抑止に拘泥する 発想からの転換を
日本の安全保障をめぐる論議は、もっぱら同盟と抑止力

の強化に焦点を当てている。その背景には、日米の抑止によって、日本を脅かす戦争が防がれてきたという成功体験がある。だが、大国間の相互抑止が安定していない今日、軍事力だけでは戦争の恐怖から逃れることはできない。同盟国から見捨てられるか、同盟国の戦争に巻き込まれるか

という「同盟のジレンマ」が顕在化する。ロシアのウクライナ侵攻に際して、米国はウクライナへの米軍派遣を否定したが、それは、米国がロシアと直接衝突すれば、世界戦争になるという懸念があるからである。大国を抑止するためには大国間の戦争を覚悟しなければならず、また大国間の戦争を避

は、大国の武力行使も、世界戦争も、選択することはできない。戦争回避が日本の安全保障政策の目標でなければならぬ。そのためには、抑止の論理にのみ拘泥する発想からの転換が求められる。抑止とは、戦争を企図する者に対して、戦争による利益を上回る損害、あるいは、耐

え難い損害を被ることを認識させて、思いとどまらせることである。抑止のためには、相手がこちらの反撃の能力と意思を疑わず、手痛い損害を被ることを確信する必要がある。だが、そこには多くの誤算や認識の齟齬が生まれる。相手は、こちらの意思を軽視するかもしれない。あるいは、損害を過小に見積もるかもしれない。さらに、「いかなる反撃を受けても断じて譲歩できない」と考えるかもしれない。これらは、ロシアがウクライナ侵攻で示した侵略する側の心理である。反撃を凶ろうとする側も、どの程度の武力を加えれば相手が侵攻を断念するか、正確には理解できない。そこで、反撃力が大きいほどよいと考える。その究極には、核兵器がある。一方、反撃が大きいほど、相手の再反撃も大きくなる。やがて武力によって抑止しようとする側も、大きな損害を覚悟しなければならなくなる。大国を抑止するには世界戦争を覚悟しなければならぬ。それは、ロシアだけではなく中国についても同じである。

大仏師、松本明慶師の

素顔に迫る

宇宙生命哲学者

伊藤 俊洋（神奈川県）

地球上の生物量を重量で比較すると、その95%以上が植物である。植物は、基本的に移動することがなく、一旦大地に根をはると、生涯その場であらゆる環境変化に耐え凌いで、孤高の哲学者のように生き続ける。樹木の中には、

数千年という長い年月を生き続けるものもある。大樹の前に立つと、その樹が放つオーラ、生命力、魂のようなものを感じ、荘厳な気分になる。仏師とは、木の中から仏の魂を



高野山1200年開創に中門の失われた四天王のうち二体を松本明慶工房が納めた。トンボを胸にとまらせた増長天を前に語る松本明慶大仏師（2015年）

彫り出す人たちのことをいう。

本誌の関係者のご縁で、現代随一の仏師、松本明慶師と接する機会を得た。

明慶師は、1945年京都は三条大橋の近くの生まれの77歳。17歳の時（1962年）、弟君が医療事故で命を落としたことが契機となり、仏師を志し、仏像彫刻を始められた。1964年には、京仏師、野崎宗慶氏に弟子入りし、作風は運慶・快慶の流れを汲む慶流を受け継いでいる。その後、多くの

名作を世に出し、名実共に日本を代表する大仏師として、その存在を揺るぎないものにしていく。その才能は、海外でも高く評価され、1988年にはフランス国立ギメ美術館（ルーブル美術館の東洋別館）の仏像100体の修復も担当された。

私は、人間の精神活動も含めて、全ての生命現象は、化学反応であるとする立場で、

「宇宙生命哲学」という概念を世に広めている。大仏師と宇宙生命哲学者が対面した時

に、どのような化学反応が起こるのかというのが、今回の企画の主旨である。

「鬼となって 木の中に仏を見出し制作に とりかかる」

私にとって、明慶師は初対面であり、体型や風貌など、空想は膨らむ一方であった。明慶師には、息子さんの大仏師の称号を持つ明観さん（京都仏像彫刻家協会会長）とお孫さんの宗観、幸聖さんがおられ、伝統の技術は代々見事に引き継がれている。コロナ禍の中、5年振りに東武池袋百貨店で明慶師の作品展が開かれた（2022年11月3日〜8日）。その間、2回のギャラリートークがあり、私は最初のギャラリートークに参加して、明慶師の人となりをつぶさに観察させて頂いた。展示会の会場には400体を超える作品が整然と陳列されていて、国内外からの沢山の参観者が溢れていたが、平穏な静けさが漂っていた。

ギャラリートークでは、明慶師は、生成りの作務衣で圧倒的なオーラを伴って登場され、展示中の作品を手に取り、仏像製作に対する心構えを述べられた。作者本人は、宗教家や芸術家ではなく、一介の木彫り職人として作像に励んでいるという。素材となる一本の木に對峙し、その木が過ごした生涯に思いを馳せ、その木の中に仏の姿を見出した時に制作に取り掛かり、一気呵成に作品を仕上げたという。その時は、まさに仕事の鬼となつて、何者も近づきがたい精神状態になるといふ。「鬼が云う」と書く魂になる。作者が鬼となって木の中に仏を見出して作り上げた作品の中には、魂が宿つている。明慶師が彫った鬼の表情には、どこか休まる優しさがある。人間の心の中には仏の心と鬼の心が共存している、と明慶師は語られた。

世の中には、あらゆる場面で、魔界からの誘惑が渦巻いている。その誘惑に負けずに、精神的に豊かな生活を送るためには、仏心と鬼心との間で、バランスの良い化学反応が起る必要がある。植物と違い、動物は植物のサイトとして生きる宿命をもち、常に不安に駆られ、動き回り、ひと時も気が休まる暇がない。生き残ることに必死な人間が、心の平安を求めて、木から彫り出された仏像に惹かれる心情がよく理解できる。ギャラリートークでは、宇宙生命哲学に通ずる尊い教えを学ぶことができた。

【松本明慶師プロフィール】

1945年京都市生まれ。平成の名仏師と称される。京都市西京区に工房を持ち弟子40人と日々仏像彫刻に励む。全国に大仏を奉納する。2006年NHK「大仏に挑む」などドキュメントにも多数出演、大仏師の称号を受ける。各地で明慶工房の作品の展示即売会を行っている。

あなたにとって死とは？

大阪 中央区 原野 通有

私は死ぬのが死ぬほど怖い、死ぬほど嫌である。震えてなきだしそうになるほど怖い。だって、死んでしまえば何も無い。無ではないですか？こんな恐ろしい話がありますか！自分が存在しない空間なんて意味がない。自分が見られない、生きてない世界なんてなくても良い。自分がいない地球なんぞ糞くらえだ。人間にとって、いや、生物にとっても唯一無二最大の問題——【死】をどうして人々はもっと考えないのだろうか？不思議でならない。もしかしてどうにもならないから考えないのだろうか？死後の世界は研究のしようがないからか？誰もが絶対に逃れられないからか？

宗教はその【死】から逃げる一つの人間の叡智だったかも知れない。でも、それは【死】を誤魔化す、幻想を抱かせる結果になっっているのではないかと？洋の東西を問わず宗教は異口同音に【靈魂】【あの世】【天国】【浄土】などと説いて現世での善行と神に対する忠節を求めてきた。地動説や進化論のない時代は人々をして信じ込ませることができたが、こうまで科学が発達してくると信仰する人がかなり少なくなってきた。宗教の教えをどう引っくりかえしても、どう理屈をつけても【死後】の説明は論理に合わない。しかし、統計数理研究所の調査では「あの世を信じる」が40%、「宗教を信じない」が72%。(2013年)とある。人間の弱さだろうか？



あなた行き先は右上？左下それとも…。

した時からの問題である。自分を対象として意識することができる人間だけが自らの死を意識することができる。文芸評論家の亀井勝一郎が「死そのものよりも、死についての想像のほうがはるかに我々を恐怖せしむる」と述べている。そう言えば昔、自殺した兄さんを持つ友人が「死ぬのが怖い」と言うよりも、恐怖からくる醜態を人に見られるのが怖い」と語っていた。フーン、私なんぞはただ自分が死ぬのが怖い、居なくなるのが怖いのだ。然るに人間界では人生最大の問題、これ以上の問題があり得ない【死】【死後の世界】について議論も研究も極めて少ない。東京駅前の八重洲ブックセンターの棚には死に関して20冊もなかった

が、宗教関係はあるわあるわ三大宗教を初め何百も並べていた。人類はなかなか【死】も【宗教】も克服できない、ついつい宗教に頼ってしまう。知の巨人と言われた立花隆は【死】の解明に挑んだ。心臓が止まったり、意識を亡くした人などの研究をして人間にとって死とは何だったかを研究した。しかし、臨死体験、死ぬとき心はどうなるのかの究明でそれは生物学的な研究の域を出ていない。哲学的というか心理的とか実態的なものには到達できなかったようだ。立花自身は「自分が死んだら灰にしてどこかにゴミと一緒に捨ててくれたら良い」と言っていたくらいだから、彼にとっても【死】は無であって【死後の世界】は存在しなかったのだろう。私も齢を重ねて来て周りの人の計報をよく聞くようになった。その人の顔を思い出され、人生を振り返らされる。そして次は自分の番かと恐怖に怯える。その昔、ゼミ友の岳父の通夜に教授と訪ねたら先生は淀みなく手順を運んでいた。「いやあ、熟

が回って来る」と笑っておられた。数十年後、師の葬儀の通知には会場は《目黒(カンリック)教会》とあった。宗教には私のような俗世にしか住めない者には理解できない心の世界もあるのだろう。残念ながら、悲しいかな【死】は肉体を維持できなくなっただけの事であって、精神的な、心の世界とは無縁であろう。死後は【無】だけであって他は何もない。動物や魚、昆虫も同じことだろう。人間だけが特別な生き物、神が創った特別な生者であるはずがないから、人間の死後の世界は無でしかあり得ない。そして人間は生まれた瞬間から真っ直ぐ【死】に向って歩んでいる。誰もが、生物なら誰もが逃げられない。終活は近年盛んに言われ出したが、死活——死の恐怖からどう逃れるか、いや、恐怖をどう克服するか、どう受け容れるかの答えは永遠に見つからない。だから研究も議論も起こらないのかも知れない。だったら、せめて人生百年時代を実現シクオリティ(価値)ある健康人生を全うしたい。

福島を地を訪れて

放射能の恐ろしさ 人間の愚かさ

サラバ原発 佐久の会 矢島 慎吾

2011年の福島原発事故の発生以来、「ひとミュージアム」「未来工房もちづき」等の団体の企画による「福島を訪ねる旅」に参加し、今までに6回、現地を訪ねました。その中で浪江町の吉沢牧場には3回訪れ、牧場長の吉沢正巳さんから直接お話を聞きましたので、記憶に残っている印象的なことについてくつか記したいと思います。

吉沢牧場は、第一原発の北西方向14kmに位置している、浪江町と南相馬市の境界にあります。風向きにより、強い放射能汚染を受け、全町避難しなければならぬ状態に追い込まれた



矢島慎吾さんの版画の一部分を拡大（表紙参照）

所でした。飼育していた牛たちは、売ることは一切出来なくなり、国や県はすべて殺処分するように命じましたが、その方針に抗い、吉沢さんは牛たちを殺さず、ずっと飼いつけています。吉沢さんの小屋の周辺には、今までに死んだ牛の頭蓋骨があちこちに並んでいます。吉沢さんは次のように語っています。

ベコ屋に牛なんか殺せない

若い子育て世代は、もうふるさとは戻らず、移住するでしょう。浪江は終わりです。農家は、米を作れないでしょう。汚染したダムの水は使えません。小・中・高校は休校廃校になるでしょう。7000人は県外に、残りは県内にチリジリに。もう町の絆は終わってしまった。浪江の歴史は終わってしまった。止めようがありません。当時は、浪江には一切情報提供がなかった。1号機、3号機爆発で津島に逃げたが、そこは猛烈な放射能だった。置き去りにされた牛1500頭は、餓死、

死んで腐って、骨と皮のミイラになった。石灰を撒いて病気が出ないようにした。人間が殺した牛は1800頭。国や県が殺せと行ったから。

しかし、この牧場では、殺処分には従わなかった。牛飼いが牛を殺すことなんて、とても出来ない。牛は汚染された草を毎日食べている。そのため、今20頭ほどの牛に白い斑点が出始めている。放射能の影響によるものです。今ここに、315頭の牛がいます。当時は330頭でした。

こういう牛たちと、毎日一緒に生きて、原発の時代を牛と共に乗り越えたい。そして放射能というものが、命にどんな影響をもたらすのかを、多くのの人に見てもらいたい（2017年）。

牛たちは訴えている

吉沢さんのお話を聞いた後、同行の女性が呟きました。「隣にいた牛の目を見たら、何だか大きな目に涙が浮かんでるみたい。」そして又、別の女性は次のような短歌を後に書き記しました。「この期にも、東京支える送電線、餓死扼殺の牛ら見つむる」福島島の印象をこのように表

現した仲間たちの思いは、吉沢さんのお話と共に、深く心に残りました。牧場を後にした私も、いろいろな事が想い浮かびました。全町避難の際、牛舎に繋がれたまま置き去りにされた牛たちは、死ぬまでにどれ程苦しんだことか、餌も与えられず、飲む水もなく。あまりの空腹に、そばの柱にかじりついて、喰いちぎったのだろう。

今も生き抜いているこの牛たちは、本当はすべてを知り尽くし、涙を浮かべながら訴えているのではないか。原発などというものを造り、事故を起こして、もう生きてゆけない大地にしてしまった放射能の恐ろしさ、人間の愚かさを…。

そうした想いをもとに、木版画「放射能の中を生きる」を制作しました。

岸田内閣は、今までの方針を大転換して、60年超運転を可とする原発再稼働と、次世代型原発新設の方向を打ち出しましたが、驚きの他ありません。大地震に襲われたり、ミサイルが命中したら、もはや日本は終わりではないのだろうか?!

人間の都合で不幸な目にあっている牛たちを助けているので、皆さんエサ代のカンパをお願いします。

募金送り先

希望の牧場よしざわ 代表 吉沢正巳

あぶくま信用金庫 浪江支店 口座番号0305362

映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!



第20話

ロシアとの共同制作映画で、 戦後の共存できる平和を作る



日本家屋前の撮影風景

中国など年間13回の国際映画祭を企画しているチームです。代表のセルゲイ氏やマキシム氏は非常に高度な人間外交力を発揮し、各国の大臣と交流をし、ロシア映画をPRしていきます。

ロシア人との交流は5年前、私が代表を務める一般社団法人ユーラシア国際映画祭がロシアと日本の相互紹介に取り組み始めたことに起因します。ロシアチームは、ロシア文化庁から請け負ったロシア映画祭をイギリスや、スペイン、メキシコやモンゴル、

よく「ロシア人って皆ブーチンに洗脳されているの?」なんて聞かれることもあるのですがそんな簡単なことではありません。

共産国家ならではの組織の決定は絶対と理解しつつ、その仕組みに逆らわずに、自分達の自由に行ける領域でやりがいを見つけてしっかり自己表現や仕事の工夫をします。編集をしながら改めて感じましたが、明確にいろいろなチャレンジを時間が許される限り彼らは行っており非常にクリエイティブです。

ロシアでは各地方に国营劇団が存在し、数百人が芸術で喰える状況があるということにも起因します。ロシアでの芸術のあり方は、世界市場での利益追求というよりも国内の国民への芸術的体験を通じて教育を重視しているような印象があります。ただし最近では地方劇団への国の補助が減って、劇団員はアルバイト

をしなければ生きていけない状況になり、景気悪化・資本主義の波が押し寄せてもきているようです。

戦争下でいかにロシア人 スタッフを守るか

映画製作中、「日本の国会議員500名ロシアへの渡航禁止」という報道がありました。ロシア政府が自国に対して批判的な存在はロシア国内への入国を禁止するという。

ゼレンスキー演説をスタンディングオーベイションでたたえた国会議員は皆NGとなったわけです。

実は国会議員渡航禁止の報道発表の一週間ほど前、ロシア大使館の職員から私に直電話がありました。「増山さんは、ウクライナの映画を上映



現場の増山麗奈氏(右)

したり、反ロシアのジャーナリストとテレビ番組に出ていますね。増山さんは反ロシアの思想を持っているのですか?」

2022年2月にウクライナの映画を上映した映画祭に関わったことがロシア人招聘団体の代表として問題になっているようでした。私は、自分地震が起きた国や、紛争が起きた国に今まで渡航しボランティアをしてきたことを伝え、ウクライナだけではなく、地球上でどの国が困っていても助ける文化活動をするのが私の地球人としてのスタンスだ」と伝えました。すると理解をしてくれたようので、私は渡航禁止文化人の中に入っていないませんでした。

あの時レッドカードだと判断されていたら、ロシア人招聘は難しかったでしょう。もし私が反ロシアの活動家だと判断をされたら、私と映画を制作している若いカメラマンたちが優先的に戦場に連れていかれるという事態にもなりかねません。ロシア政府は反ウクライナの活動をしているとみなした国民から召集令状を送っているとも聞きます。

ロシア大使館の思想調査で伝えたことは私の本音です。世界中のすべての国が平和であることを願っています。共同制作映画の主権者として、ロシア側スタッフの命

を守る立場として戦争反対と言えない歯痒さも抱えながら、私たちの役目は戦後の地平を作ることなのではないか、と考えています。世界を二項対立で分けて、そのどちらかに位置付けられる、現状の政策に反対を唱えるということではなく、その先に全ての人が存在できる場所を作っておくことです。

境界を飛び越えて、心をつなげることを。相手の良い部分を見つけていくこと。それは政治的な活動ではなく、文化的な活動でこそ可能です。

私たちが奮闘して5年がかりで昨年暮れ完成した日露合作映画「歳三の刀」は侍がロシアに渡り、世界を旅する歴史ファンタジーストーリーです。パンデミック、戦争の中で実現した私たちのコラボ作品は、関わる全ての方々の努力によって成し遂げた宝物です。関わり支えてくださった全ての方々に感謝いたします。この映画とこれから世界中の映画祭を旅しますが、その行く先々を相互に観光的魅力を紹介し合いつなげる架け橋となりたくです。我ユーラシアの橋ならん♪

(ユーラシア国際映画祭代表)

国家権力と国民との関係を考えた時、「家畜化」という単語が思い浮かびました。

政治って何？ 行政って何？ 法律って何？ 教育って何？

誰の為の政治？ 公文書改ざんって何？ マイナンバーって何？ 植民地って何？ 傀儡政権って何？ 原発事故から何を学んだの？ 戦争って何？

沢山の何？何？ 疑問？疑問？

これらの何？ 疑問？に「家畜化」というワードを1つ当てはめれば、まるでジグソーパズルが埋まるように、その不愉快で不可解な疑問が一気に氷解し、モノゴトの全容がハッキリと見て取れた。これは大発見です。

一度お試しく下さい。嘘をつく、隠す、改ざんする、森加計、桜、袖の下、オリンピック汚職、フタを開けてみれば統一教会とつるんでいる。国民の事を屁とも思わない詐欺師のような連中、こんな連中が国家政治の舵取りをしている。そこには民主主義政治のカケラもない。いくらなんでも、それはないだろう？

何故こんな連中が？と言いたい。このような状況がいつまで続くの？と国民の誰もが思っている。

なのに、いつこうに改まる気配がない。いったい国家って何？権力って何？

考えてみれば、国家の歴史って「家畜化」の歴史だと言えぬ。

先祖は、野山を己の自由意

ライブストック

（「家畜」の意）

『市民参加条例』推進委員会

代表 松井 学

思で生きていた野生動物。これを飼い主（権力）が欲する時には、いつでも、その卵、ミルク、血肉、命を自由に収奪することが出来る。

このように仕立てあげられるのが家畜である。

家畜のことを英語では「ライブストック」と言うらしいです。

即ち、「生きたままでの貯

蓄」と言う意味です。まさに言い得て妙な表現です。

目を転じれば国家と国民との関係でも、まったく同じ構図が見て取れる。他でもない私達の国の貴方達や私達のことですよ！

国民の不幸、生死を問わず、あの手この手で血税を収奪する。国民の貴重な資産である公文書を破棄、改ざんす

生産性」と言い放ったのも権力者の本音なのです。

じゃ〜権力って何？

の質問にお答えしましょう。権力って、自分達に都合のよい法律なり命令なり規則な

りを創れる集団のことを言います。公文書の改ざん、破棄。それに対して何のおとがめもない連中。このような連



国会議事堂。ここに権力が...

中が群れている集団のことを言います。今の日本の政治は、まるでヨーロッパ中世を思わせる暗黒政治です。

それと、植民地下での政権を傀儡政権と言います。傀儡政権下では、絶対にチャンスとした民主主義政治は育ちません。

何故なら、宗主国がこれを嫌うからです。

宗主国としての地位が脅かされるからです。アフリカ大陸の植民地時代を思い浮かべてください。植民地下での国民は二重の意味での家畜です。これが歴史なのです。

我が国では、吉田茂さん、岸信介さん、岸のお孫さんの安倍さん、傀儡維持に、よく尽くしてくれました。ご立派です。

二重家畜から逃れたいのなら、家畜のままではいたくないのなら、「こんな政治は許せない！」って声を上げるべきです。

例え、ごまめの歯ざりでもいい、皆で声を挙げるべきです。

国家の主体は我々国民なのですから。

今、北海道のニセコ町を鎬矢に各地方から声が上がってきています。市民の知る権利を保障し、市民が自主的に考え、声を上げることを担保する条例、『市民参加条例』が創設されてきています。全国地方自治体の四〇〇余がこの『市民参加条例』・『市民基本条例』を備えるに至っています。貴方も一歩を踏み出してください。（大阪府藤井寺市）

32年の区議会議員を

終える今、思うこと

東京都 江東区議会議員 福馬 えみ子

1991年（平成3年）4

月、無謀にも江東区議会議員選挙に初挑戦。地盤・看板・カバンはなく「私は生活派です」のキャッチフレーズでの立候補でした。当時定員48名中48位最下位でしたが嬉しい当選となりました。あれから8回連続当選の32年が経ちました。民主党の解党により無所属となりましたが、〈枝野の立て〉に共鳴して立憲民主党に参加。4年前の選挙で若い女性の新人に加えて現職・元職・新人で一挙に2名から5名に躍進することができたのです。

立候補前には生協（現パルシステム）で消費者活動をしていましたが議員となり、どのように活動すればいいか？全くの素人。

初めての議会質問は、手は震え声が裏返っていたことを覚えていています。

こうして振り返ると様々な

出来事が浮かんできます。第2次ごみ戦争、リサイクルの推進、行政評価の導入、介護保険の導入、特別区制度の改革、清掃事業の区移管、臨海副都心計画の推進、埋め立て地の帰属問題、豊洲新市場移転に伴う問題解決、住民参加の推進、特別支援教育の推進、新型コロナウイルス感染対策、地下鉄8号線の延伸計画等々たくさん思ひ出されます。

そんな中

で江東区にとって一番大きなニュースは、昨年の地下鉄8号線の事業決定です。江東区にとって地下鉄8号線は長年の悲願。始まりは1972



年（昭和47年）3月都市交通審議会での「地下鉄8号線の亀有への分岐」が答申されたのです。あれから50年経ちようやく決定したのです。私が議員になったころにも運動は続けられていたがとても実現できる雰囲気はなく、私自身「地下鉄8号線はできない」と思っていました。それが動いたのは築地市場の豊洲への移転です。移転において江東区は東京都に「土壌汚染の無害化」「千客万来施設の建設」「地下鉄8号線の延伸」を約束させたのです。さらに小池都知事の誕生で豊洲

市場の不備が見つかり開場が延期。開場に向け都は「地下鉄8号線の事業スキームを作る」と約束し、それ以降5年をかけて粘り強く交渉し延伸

が決定したのです。この交渉は区議会の「清掃港湾・臨海部対策特別委員会」が東京都と行いました。私は所属委員として長くかわり、「自治体同士の約束は重い、何としても守るべき」と繰り返し発言しました。総事業費約2690億円、2030年半ばに開業となります。今後地下鉄8号線延伸のまちづくりが始まります。そのためには江東区はこれまで培った住民参加の仕組みを最大限生かし、地域や利用者の方たちの声をしっかりと聞き、各駅周辺のまちづくりをしていかなければなりません。

今もこれからも行政運営に求められるのは住民参加です。区民の行政を見る目は変わりました。区民の信頼と期待にこたえていくために、情報公開を徹底し「区政の見える可」を図ることを求めています。なければならぬと考えます。さらに多様化する区民ニーズに柔軟に対応するため、行政評価を活用し行政の無駄を省きしっかりと行政の政基盤を築き、「これからは江東区に住みたい」と感じていただける江東区になってほしいと思います。

8期32年の長きにわたり議員として活動できたことは本当にうれしいことです。多くの方々に支えていただいたことに心から感謝し、これからの人生を楽しみたいと思っています。

選挙に関心のない方々から「だれを選んでも何も変わらない。」と言われることもあります。本当にそうでしょうか？ 私たちの暮らしは政治に大きな影響を受けているのです。国・都・区が行う事業の財源は私たちの税金です。その税金がどう使われるか、しっかりと見ていかなければならないのです。この事への発信力も議員の大きな役割だと思います。今後も普通の暮らしを守るために活動していきたいと考えています。今は、自民党・公明党に維新の党を加えた保守政党が強く、弱い立場の働く人の声が充分届かなくなっています。野党をもっと強くすることが保守政権の暴走を止めることとなります。

4月の統一自治体選挙は身近な選挙ですが、関心が薄く地縁血縁の選挙に陥りがちです。私たちの暮らしを守り、区民のために働く議員が多く選ばれることを願っています。

立憲民主党江東区は勇退する福馬えみ子の代わりに都議選で惜敗した高野勇斗を立てて、8期当選のベテラン新島恒雄、幹事長の甚野ゆずる、NTTドコモ出身の鈴木あやこ、助産師の酒井なつみの現職4名、新人1名で現有議席の確保を期している。江東の立憲民主党は3月22日（水）に江東区産業会館で5人の候補の区議選必勝を期して決起集会を開く

雪を考える

越後文学同人 丸山 善三（新潟県三条市）

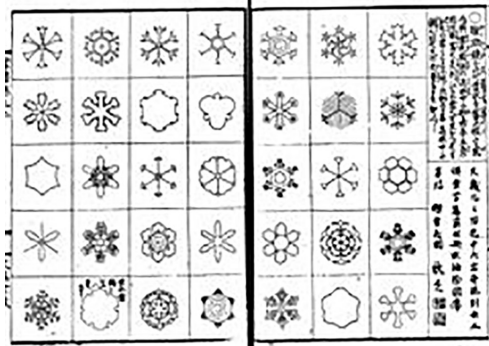
十一月に入ると当地新潟では、山間部に降雪の知らせが頻繁に聞かれ始める。気温が下がる雨から一挙に雪へ、アツという間に一面を真っ白に染める。西高東低の気圧配置が居座り太平洋側の好天とは裏腹に日本海側は、鉛色の雪空の日が続く。十二月から翌年三月迄、約四カ月間の雪との格闘が始まる。その間、鉛色の空から陽光が射すことは少ない。

「雪は、お天道様からの手紙、形を変えてメッセージを届けてくれる…」

大気の温度によって微妙に形を変える雪の結晶を例えた美しい言葉の表現である。

今から一八〇年前、江戸後期の天保年間に裏日本、越後の風物を描いた読み物を著した文人がいた。彼の名は鈴木牧之。その著作は『北越雪譜』である。鈴木牧之は、現在の新潟県南魚沼市塩沢に生まれ縮み織物の仲買商でもあった。牧之は、商いを通して江戸の暮らしを知り江戸（暖国と称していた）と越後

の違いを実感した。そんな体験から、雪のない暖国、江戸と雪国、越後の違いを様々な事例をあげて書き物で著そうと『北越雪譜』を世に送り出した。作品は、天保八年（一



天保8年出版のベストセラー「北越雪譜」（著者＝鈴木牧之）

八三七年）に江戸で出版されると当時のベストセラーとなり話題を呼んだ。牧之は、出版そのものが、越後の地では、難しい事を知り、親交のあった東京の文化人の協力を得ながら出版に至ったと云われている。そして、初編から四年後の一八四一年には二編が発売され好評を博した。その内容は、雪との厳しい闘いに耐

えながらの雪国の生活が江戸とは、まったく異なった生活圏を成していることを強調している。大きな特徴として全編を通して豪雪地、越後魚沼の生活を五十五点の挿絵を入れながら生き生きと描写している。更に『北越雪譜』では、雪から導き出される様々な魅力と共に、実際に暮らす視点から雪の弊害についての体験も具体的に描かれている。

実際、私達越後人にとって一年の三分の一は、日本海側特有の湿気を含んだ重い雪の日が続く。雪が積もれば、雪が消えるまで雪との格闘を強いられる。それは、雪国に暮らす人々の宿命でもある。少なくとも雪との厳しい生活の中で、越後人特有の忍耐力が培われてきたとも云える。一方、天然現象である雪は、貴重な水資源として様々な利用される。

一九六三年（昭和三八年）北陸地方を中心とした激甚な雪害が発生した。後に「サンパチ（三八）豪雪」と呼ばれ数々の教訓を与えると共に、我が国の雪に対する考え方を変えるきっかけになった災害であった。それ以来「豪雪」は、気象用語となり太平洋側の数セ



雪道をかんじきで歩く

ンチ単位の「大雪」と区別されることになった。「雪害」と云う言葉も現在、日常用いられているが、本来、雪国には雪害と云う意識は存在しなかった。世界有数と云える豪雪地帯である新潟県と長野県の県境では、一晩で一メートルを超える雪が降る。多い年にはシーズンで五メートル以上も積み上がる。それらを地元では、「ドカ雪」と呼んでいる。

「三八豪雪」は、山間部よりも人口の密集している里部を襲った豪雪災害であった。私の住んでいる三条市では、二五〇センチの積雪を記録した。当時小学一年生の私には、二階の窓越しから電線を避けながら出入りした記憶が残っている。当然、交通手段は麻痺し、生活物資の輸送がストップ。都市部に「陸の孤島」が出現し自衛隊が緊急出

動し救助に当たった。国鉄の除雪対応の限界が露呈し、新たに幹線道路による交通網を確保する必要性が提起された。「三八豪雪」以前の雪害は、雪の重みによる家屋の倒壊や雪崩による被害が主で、政府対策の中心は、交通の要、鉄道網の確保であった。現在、高速道路をはじめとする各道路網が無雪化整備され通行に支障をきたすことが無くなった。此れらは、「三八豪雪」の災害経験から得たものである。



熊が遭難した人を助ける

現在の車社会の中で、雪害対策の主眼は、市街地の交通渋滞の回避に移っている。昨年師走、新潟で発

生した、急な降雪による車の立ち往生事故では、車内の一酸化炭素中毒の危険性も指摘された。その教訓からも車両のクリーンエネルギー化への実現が問われよう。

（トップ工業株式会社 常務取締役 作業工具製造業）

ファイナルアンサー

東京都東久留米市 植松 信保

十数年前前に某テレビ局で放送されていた人気番組で「クイズミリオネア」と言うクイズ番組があった。数々の一千万円長者を送り出して視聴者の人気を博していたが、有名人の多くは最後の一千万円に届く事なく敗退していった。このクイズの発祥はイギリスのクイズ番組との事だが、先日このクイズ番組をテーマにしたインド映画「スラムドッグ\$ミリオネア」を久しぶりにユーチューブでみた。この



インド映画らしく大勢のダンスシーンで締め括られていて見終わった後に嬉しくなった。インドの大都市ムンバイのスラム育ちの無学な若者のマジヤールが、

映画の前半は、インドのムンバイのスラムで暮らす子供達が如何に過酷で劣悪な環境で生きているかが描かれている。

人は生まれてくる場所は選べないが、個人的にはつくづく日本に生まれた幸せを感じたものである。この映画はさすがアカデミー賞八部門の名

に恥じない良い作品で有った。インドの厳しい現実を映し出す中で、兄弟の絆や人を愛する根幹をラブストーリーに絡めながら収められている。最近では色々な所でインド映画が上映されているが、その多くが大勢のダンスの踊りで楽しめる。この映画も最後はインド映画らしく大勢のダンスシーンで締め括られていて見終わった後に嬉しくなった。

インドの大都市ムンバイのスラム育ちの無学な若者のマジヤールが、テレビ番組「クイズ\$ミリオネア」で最後の一回まで辿り着き見事に正解。一夜にして二千万ルピーを手にして億万長者となる。学者や知識人が辿りつけないものを無学なスラムの青年が解る筈がないと不正を疑われるが、彼の運命と共にスラムドッグという劣悪な環境の中で、如何にあが

いても其処から抜け出せない弱者が生きぬく為、逆境の中から学んだ事を生かしながらクイズの問題を乗り越えて行き、最後に大きなものを勝ち取るという物語。

この映画の中ではイスラムとヒンズーなどの宗教対立による殺人や放火、格差、貧困、差別、暴力、組織が子供を誘拐して物乞いに仕立てる等々、社会問題を抱える今のインドの恥部を余す事なく写し出しているのも面白い。インド政府がこの映画を外国に出すことを猛烈に反対したと言われるのも解る様な気がする。現在のコロナ禍の社会不安から波及するある種の不況の中、私達の一人一人が新たな働き方を見つけ、工夫を凝らしながら新たな展望に立つて人生の行き着くところに希望を求めた筈だが、押し寄せた数波のコロナの襲来に抗えない所も出ている。

インド政府に劣らず我が日本も日本の現状を世界に詳らかにする事には激しく躊躇するのではないか？

現在のコロナ禍の下での急速に進む高齢化社会、長年抑えられてきた低賃金、大学を

卒業して就職した瞬間に多くの大学卒業生が奨学金返済という借金地獄に身を置く事になる。

又、一説には引きこもり人口が70万人、80万人とも言われ、それに伴って50・80歳問題が発生している。社会不安から波及するある種の不況の

憲法25条を生存権を発出させた鈴木義男

当誌は『健康にして文化的な生活を営む権利が国民にある』と現行憲法制定委員会での25条に織り込んでくれた社会党の鈴木義男議員の活躍を3回に渡って掲載しました。この権利が侵害されているとの訴えは分かりやすく裁判官の耳に届きやすい。我々は戦後どれだけこの条文に助けられ、勇気づけられたことか。

この度『**平和憲法をつくった男・鈴木義男**』（筑摩書房・1800円）が出版された。

義男氏が学んだ、理事長をも勤めた東北学院大学の仁昌寺正一名誉教授の研究になるものです。現憲法をGHQの押しつけとする議論が絶えない中で、大正デモクラシー期に吉野作造などの教えを受け、

中、長年、社会に貢献して来たと自負する多くの高齢者の一人一人が長い人生の行き着くところに希望を求めた筈だが、個人的には人生の晩年を迎えてどれ程の人が自らの人生に自信をもってファイナルアンサーと言えるのだろうか？

ワイマール・デモクラシー期にヨーロッパ留学して思想形成した鈴木義男氏が憲法9条の積極的意義づけをする字句の追加や25条の福祉権の挿入に貢献した鈴木義男の存在を皆さんも是非読んで学んでいただきたいものです。

義男氏は2017年にNHKから『憲法70年―平和国家はこうして生まれた』や2020年に放映された『義男さんと憲法の誕生』との番組で紹介されています。小誌もこのTVを観るまで義男氏のことを知らなかったが学ぶに付けて憲法25条に意義は大きいことを知った。9条は実質完全に変質させられたが今後生存権は国家に要求し責められる武器です。

ウケ
人の
小景

連載
第23回

伊丹十三

映画に生き、映画に死んだ、
映画監督

鎌倉在住 市川隼

走り幅跳びの選手が、長い助走からスピードを上げ、一気に踏み切ってジャンプをする様に、伊丹十三は、長い助走から一気に踏み切って、51歳の時に映画監督としてジャンプし、13年の間に10作品を残して、64歳の若さで死亡した。それまでの人生の体験を凝縮させて、全ての作品に畳み込み、『お葬式』（1984）を最初の作品として手掛け、10作目の『マルタイの女』（1997）を残して世を去った。十三の死には、自死説、他殺説が入り乱れるよ

うに徘徊し今日まで至っているが、才能豊かな十三が放つたの作品を待ち続けた人々にとつて、十三の死は受け入れ難い惜別だった。

十三は、挿絵画家、脚本家、映画監督として一世を風靡した伊丹

万作の長男として京都に1933年に誕生した。万作は、稲垣浩監督の名作『無法松の一生』（1943）の脚本家でもあり、監督としても、伊達騒動を描いた『赤西蠣太』（1936）や新人原節子が出演した日独合作『新しき土』（1936）の日本側の監督を務め、22本の作品を残した。黒澤明が最初の映画製作を意図して描いた脚本『須磨寺のドイツ人』（1941）を、黒澤の師匠山本嘉次郎共々高く評価したのも万作であった。万作は46歳の若さで病死し、母や妹が父の郷里松山に移るが、13歳の十三は京都に残り、万作の『赤西蠣太』に心酔し、後に黒澤の『羅生門』からスクリーンターとして黒澤組のメンバーになった野上照代が、十三の

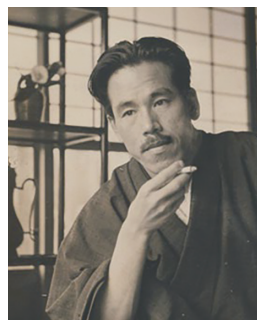


伊丹十三関連著作

面倒を見る事になったのも、映画監督となった十三にとつて、奇縁だったに違いない。

十三は、幼年から才能が評価されたのか、戦

中の日本としては異例だった、英語の英才教育が施された京都師範男子部附属国民学校の特別科学教育学級に1944年に編入され、湯川秀樹・貝塚茂樹兄弟の子息達と同級であり、小学校時代に身につけた英語が、映画俳優となつてハリウッドで活躍する素地ともなった。松山に移った高校時代は、義弟となった大江健三郎とも校内文芸誌で親交を深める等、十三の才能は多くの友人達や周りの人々の刺激を受けて培われて行った。画家として才があった父に評価された十三が子供時代に描いた写生画が、万作と親交の深かった俳人中村草田男によつて所蔵されていた逸話が残されて居るが、父万作と同じ様に十三は多才であり、随筆家、商業デザイナー、CMクリエイター、イラスト



伊丹万作（十三の父）



伊丹十三（万作の息子）

レーター、映画俳優等で知られている。野上照代は、十三は、「伊丹万作の息子」として紹介されて来たが、映画監督に転じてからは、万作は、「伊丹十三の父親」と紹介されるようになった。と語っているが、川喜多長政の長女和子との協議離婚（1966）後、宮本信子との出会い・再婚（1969）が、大きな転機ともなった様だ。

誰でも遭遇する日常的な突然の出来事の前で、人々が戸惑い彷徨う姿や（お葬式、タンプポ、個人的な生活、大病人）、現代日本社会の恥部とされ、今も日々生じてい

る、政治家への裏献金・暴力団・脱税・商品表示偽造・オカルト宗教等が纏わる社会の問題を（あげまん、マルサの女1&2、ミンポの女、スパーの女、マルタイの女）、スクリーンの上に赤裸々にして見せたのが十三の映画だった。どの作品も多くの観客に支持されたが、最初の作品の『お葬式』が興行的に成功する自信等無く、夫婦で恐る恐る映画館を覗きに行き、観客が行列を作つて切符を購入する姿を眺めた時の感動や、2作目の『タンプポ』が米国で評判となり、宮本も招待されて特別上映され大きな拍手に包まれた感激を、眼を輝かせ乍ら語る宮本が印象的で、「宮本さん程の素晴らしい女優を主演にした映画を作らなければならぬ」（十三）、「伊丹さんに、どうしても監督として映画を作つて欲しかった」（宮本）との二人の相思相愛が10作品に結実した。松山の地に伊丹十三記念館（1997）が開設され既に25年経つが、十三の業績は今日も衰えることなく、益々光輝いている。

困った困った

山本 豊子

43兆円、私の頭の中を占領している数字は、2027年度までに増やす防衛費である。そして着々と軍備が進められている。

国の財政は破綻も同然、不況に国民が苦しんでいるというのに、防衛費の為に増税するという。郵寄せは、社会保障にいくだろう。



東海道線を利用することが多い。度々、人身事故での遅れに出会う。コロナ禍で失業、生活苦から死を選んだのではないだろうか、あらぬ想像をしてしまう。

「お母さん、暗いニュースばかり見ないで楽しい事を考えたら」。時々娘に笑われる。しかし貧乏性も相まって、裏側が気にかかる。20歳

の頃、働きながら夜学に通った。給料前になると懐は寂しく、手持ち資金200円という月があった。定期があり、社員食堂の食券で昼食は大丈夫、家に帰れば父と兄が居た。しかし何かあったら、恐怖である。しかも銀行に預金もない、いつも薄氷を踏む思いだった。

毎年、大晦日が近づく、日比谷公園の年越しテント村を思い出す。今年は、コロナ禍3年目の暮れである。燃料費も上がっている。無事に年が越せるだろうか。他人事ではない。

都会は家賃が高すぎ、住みにくい。今、盛んに地方への移住を推奨している。空き家を改装し、安い家賃で住める。高齢化で休眠している土地がある。自給自足すれば暮らせるのではないだろうか。どろんこになって遊べたら、子どもたちも幸せだ。思い切って田舎へ行こう。

心配性に加え、思い込みや、度忘れといった認知症一歩手前の症状が目立っている。失敗しては落ち込んで眠れない、困った困った。

余録

昨春秋に71号を発行してから、相次いで新しい、それも見知らぬ方からの申し出があった。まずは東の江戸川区の方から自分らの20人くらいのグループで勉強に配るから20部毎回送って欲しい。ついで、西の大阪は千里の方から、これも20人のサークルで読むから毎号送って欲しいと。そうこうするうちに南大阪の方から自分の書いたもの

編集後記

ロシアのウクライナ侵攻、エネルギー危機、暮らしを圧迫する経済動向など、騒然たる世情です。国会論議を経ることなく、防衛予算がいともたやすく大幅に増額されているものか。奇妙な静けさの中で新しい年が明けました。▼表紙のモノトーンルックの木版画「放射能の中を生きる」は地獄の曼荼羅を思わせ、原発にねじ伏せられた生きとし生けるものの無念、怒り、悲

を掲載して欲しいと。北は新潟の越後文学の同人からも掲載希望の連絡があった。かと思つくと当社中のメンバーが紹介してくれて「原発のことを書きたい」からと送って来られた。どこからのルートで当ライフレックスングを知られたのか謎だが、謎は謎で置いて、皆さんに読んでいただくに値するタウン誌でないといけないなど、思つたり、いやいや、我々は素人集団、もうこれ以上は無理と悲観的になつたりしたり。中に

しみが刻み込まれています。細部までごらんください▼淡々とした筆致が心に届く「父がくれたお弁当箱」。少年の日の思い出から、「家族とは何か」を手繰り寄せる自身史。引き込まれました▼他国領土へのプーチンの野望を目の当たりにし、どのように国家を守るのかを突きつけられる今。国防、平和のあるべき姿に一石を投じるNDの提言です▼異なる世界をフィードとする科学者と仏師。「精神活動も含め、あらゆる生命現象は化学反応である」をスタンスに、そこで起こる化学

は「最初は何となく読んでいたが、今では3人がファンになったので今後も3部送って下さい」というメールを頂いたりします。でも、寄稿していただいた原稿を殆どそのまま載せているから、執筆者が良かったのかな？しかも書き手は毎号半分以上は常連の社中でない方たち。毎号新人も2、3人登場するし。当誌は書きたい人や言いたい人、それに周りに配ってくれる人をいつでも募集しています。

反応は▼昨年暮れにロシアとの共同制作映画「歳三の刀」を完成させた増山監督。戦火の中、文化ジャンルにも当局の厳しい目が注がれていたんですね▼藤井寺市の松井氏の「ライブストック」(家畜化)まさに、現在の万象を解き明かすキーワード。ガッテンです▼初参加の丸山氏。越後ならではの雪にまつわるエピソード。おもしろく読ませてもらいました。▼小沢一郎氏からの寄稿です。今後の日本の行方はどうなるのか。野党のみならず主権者である私たちの行動が問われます。

「国民の生活が第一」の

政治の実現のためには

政権交代が必要

衆議院議員 小沢 一郎



皆さんは2100年の日本の人口が何人になるかご存じでしょうか。約6千万人です。あと80年もすれば、この国の人口は今の半分以下になり、関東・近畿地方を除いた地域の人口がゼロになるのに等しくなります。

これだけの国家的危機が目前まで迫っているのに、政治は何をやっているのでしょうか。

自民党は10年前の政権交代後、私共が導入した子ども手当や農業者戸別所得補償などのセーフティネットをバラマキ政策と批判して、次々に廃止した一方、アベノミクスと称し、日銀等の公的資金で日本株を買い占めて官製バブルを膨らまし、見せかけの企業収益

増加をもたらす円安誘導も進めました。日銀に圧力をかけて物価だけ上昇させれば景気は良くなり、選挙も有利になる、そういう短絡的な政策を10年間も続けてきたのです。

そして今、国民の生活は豊かになつたでしょうか。残念ながら逆に苦しくなっているのが現状です。ゼロ金利と円安という一種の麻薬的効果により日本の産業は急速に衰退し、賃金も上がることはありませんでした。先の見えない物価高は家計を恐ろしい勢いで追い詰めています。この結果、所得格差と貧困はかつてなく拡大しています。政治こそ今日の衰退の元凶です。

こうした政策面の失敗以上に、自民党政治が一番問題なのは、この国の「倫理観」を崩壊させたことです。

自民党政権はこの10年間、森友、加計、桜を見る会など権力の私物化や政策の利権化を行う一方、これらを隠蔽、時に公文書を改ざんし、その過程で良心の呵責に苦しんだ現場の公務員

を死に追いやり、捜査機関にも圧力をかけてきました。

統一教会と自民党の長年の癒着は、これまで全国で多くの被害者を出してきました。安倍氏の死で真相が明るみに出なければ、引き続き多くの方々が苦しんでいたことでしょう。

この間の閣僚や自民党議員の不祥事は、長期政権の腐敗ぶりをこれでもかというくらい我々に見せつけています。今やこの国の政治倫理は完全に崩壊状態です。政権維持と利権が第一、国民の生活は後回し。それこそ自民党政治の真の姿です。

全ては選挙の結果です。つまり、現在の腐敗政治を変えるには、選挙で自民党を倒し、政権交代をする以外ありません。

政権交代をして野党が目指すのは、人々が未来の希望を持って日々安定的に生活できるようにセーフティネットを再構築することです。

人口減少対策としての子ども手当の復活と拡充を最優先で行います。現在、若者たちにとって結婚し、子どもを産み育てることが極めて困難になっています。所得制限なき子ども手当を復活・拡充させることが一番わかりやすい政治のメッセージになります。

高齢者の方々に対しては最低保障年金を導入し、税金をしっかりと投入したかたちで年金制度を根本から充実させる必要があります。

地域経済対策では、農業者戸別補償制度を復活させ、地域の方々が安心して生産活動に勤しめるようにすべきです。地方に雇用を創出する再生可能エネルギーを大胆に推進することも人口減少対策として有効です。

いま政治に最も必要なことは、セーフティネットの拡充、その一言に尽きます。何としても政権交代を実現し、自民党では解決不可能なこの課題に国が一丸となって取り組むことこそ、この国を救う唯一の道です。

だからこそ野党は、こうした政策を旗印として掲げ、自民党腐敗政権を打破するために、幅広く結集すべきなのです。選挙区で一对一の闘いに持ち込めば、必ずや自民党に勝つことができます。

問題は野党の意識です。特に野党第一党は大義のためには「己を殺す」という利他の精神も時には必要です。この点はまだ不十分です。私は特にこの結果のため、本年も前面に立って汗をかきたいと思っております。

新型コロナウイルスによって人口減少は更に加速し、国家存続の危機はすぐそこまで迫ってきています。もはや時間的猶予はありません。私は、今の「政権維持と利権が第一」の自民党政治を早々に打ち倒し、「国民の生活が第一」の政治を実現すべく、本年も全力で取り組んで参る覚悟です。どうかご指導・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

【小沢一郎氏プロフィール】

1942年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。衆議院初当選27歳、自民党幹事長47歳、93年自民党を離党して新生党を結党、細川内閣を経て新進党幹事長、98年自由党結成党首に、民主党と合併後に代表、鳩山首相時期は幹事長、現在は立憲民主党衆議院議員岩手3区18期連続当選。一貫して【政権交代】と【生活が第一】を主張する。小沢一郎政治塾を主宰してきた